2017年（平成29年）12月19日 火曜日　沖縄タイムス

住民抑圧の経験 世界に発信

国際的女性リーダー県内初会合

世界平和の道 沖縄で探る

環境問題や紛争、貧困、差別など世界が抱える課題に国際的な立場で関わる女性リーダーらが集う会合が13日、那覇市内のホテルで開かれた。元国連職員でアジア女性基金専務理事などを歴任した伊勢桃代さんや、元アナウンサーでNPO法人ガイア・イニシアティブ代表の野中ともよさんらが出席した。沖縄の歴史や文化、米軍による統治や住民抑圧の経験を世界に発信すべき「普遍的な財産」と捉え、沖縄を起点に「私たちにできる具体的な行動について考えよう」と呼び掛けた。

（学芸部・座安あきの）

ソウル・オブ・ウィメン

人材育成事業や多様な分野の先進的取り組みを支援する五井平和財団が主催するSoul of Women（ソウル オブ ウィメン）初の地方会合。メンバーはほかに、同財団会長の西園寺昌美さん、栄養学とバイオ電子工学博士の増川いづみさん、鳩山友紀夫元総理大臣の妻の鳩山幸さん、参院議員の糸数慶子さん、琉球大学名誉教授の尚弘子さんら。

国連大学の事務局長を務めたこともある伊勢さんは2000年前後、国連機関を沖縄に誘致する活動を支援し、沖縄振興の経緯に詳しい。伊勢さんは「虐げられてきた苦難の経験がある沖縄だからこそ、若い人たちが国際的な場に出て発信してもらいたい。そのための具体的な企画を考えたい」と語った。

世界の困難な課題への解決策を探ろうと集まった（前列右から）伊勢桃代さん、尚弘子さんと、（後列右から）野中ともよさん、西園寺昌美さん、糸数慶子さん、鳩山幸さん、増川いづみさん＝13日、那覇市のANAクラウンプラザ沖縄ハーバービュー

糸数さんは米軍統治やその後の基地問題において沖縄の民意が尊重されてこなかった経過に触れ、沖縄の人々が人権や自己決定権を取り戻す重要性を示した上で「子どもたちが自立していくための教育に力を注ぐ必要がある」と提言した。

尚さんはWHOが定める「健康」の定義で、満たされた状態であるべき要素に「肉体」「精神」「社会性」と並んで、「スピリチュアル」が追加されたことを取り上げた。「魂と訳すとあいまいだけど、沖縄には昔からマブイという言葉があり、マブイぐみの習慣が残っている」と言い、国際的な定義と通じる沖縄の文化の奥深さを紹介。「戦後日本は沖縄を遠い存在としてきたが、食文化を含め、日本の歴史にも大きな影響を及ぼしてきた」と述べ、沖縄を学びの起点とする意義を語った。

世界各地の先住民や民俗文化を研究する増川さんも、沖縄の祭事や古い遺跡に世界の古代遺跡とつながる共通点があると解説。先住民の英知が奪われてきた世界の歴史に触れ、「知識の教育よりも、自然と共感する力、感受性を高める教育にお金をかけるべきだ。そのための環境を守る活動も不可欠」と訴えた。

核や武器を持たない人々が連帯して核兵器廃絶を呼び掛けノーベル平和賞を授賞したICAN（アイキャン）の活動の重要性に触れた野中さんは、「世の中のさまざまな事柄が間違った方向に動き始めている今だからこそ、地球で起きていることの大きな視座と、日本の立ち位置を見る必要がある」と指摘。「沖縄に来なければ学べないことが山ほどあることを共有したい」といい、会の継続的な議論から、世界の平和につながる具体的な提言が出てくることに期待した。

沖縄タイムス社 提供　©沖縄タイムス社
本PDFファイルは、「富士宣言」ウェブサイト以外での使用を禁じます。